

平成25年度

東京都がん予防・検診等実態調査報告書

(概要版)

第1章 都民を対象とした調査

1 調査概要

- (1) 調査対象
平成25年1月1日現在において、都全域（島しょを除く。）に住む満20歳以上の男女
- (2) 標本数
5,000標本（男性2,500人、女性2,500人）
- (3) 標本抽出方法
住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法
郵送配布・郵送回収法
- (5) 調査期間
平成25年10月16日から11月1日まで
- (6) 回収率
37.5%

2 回答者の属性

(1) 性・年齢

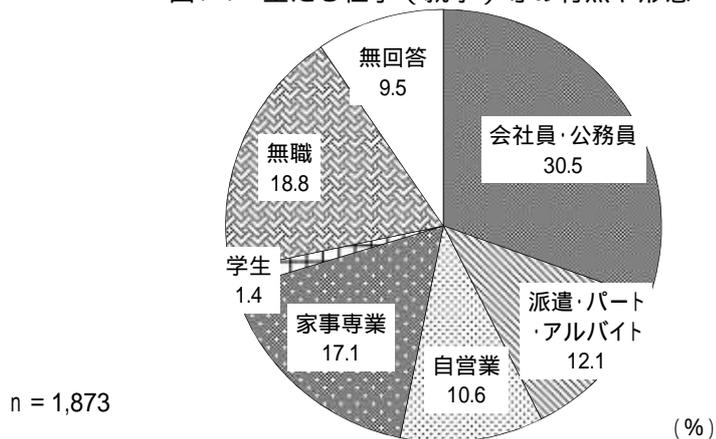
表1-1 性別・年代別回答者数

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
男性	49	84	129	150	179	221	812
	2.6	4.5	6.9	8.0	9.6	11.8	43.4
女性	82	144	176	158	202	299	1,061
	4.4	7.7	9.4	8.4	10.8	16.0	56.6
合計	131	228	305	308	381	520	1,873
	7.0	12.2	16.3	16.4	20.3	27.8	100.0

上段：人
下段：%

(2) 職業

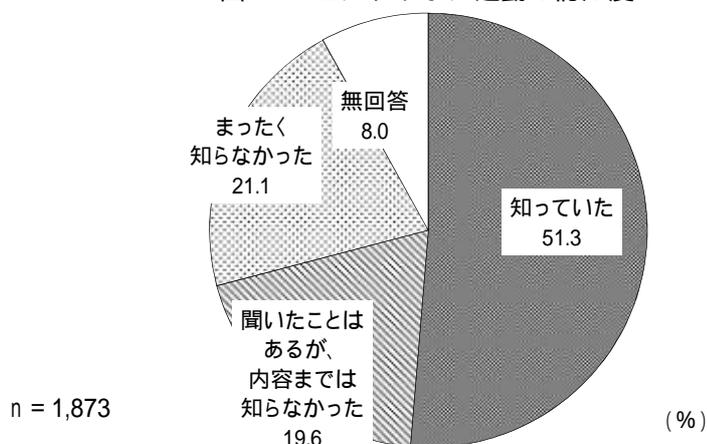
図1-1 主たる仕事（就学）等の有無や形態



3 ピンクリボン運動について知っていたか

・「知っていた」が51.3%で、「聞いたことはあるが内容までは知らなかった」をあわせて約7割が認知していた。

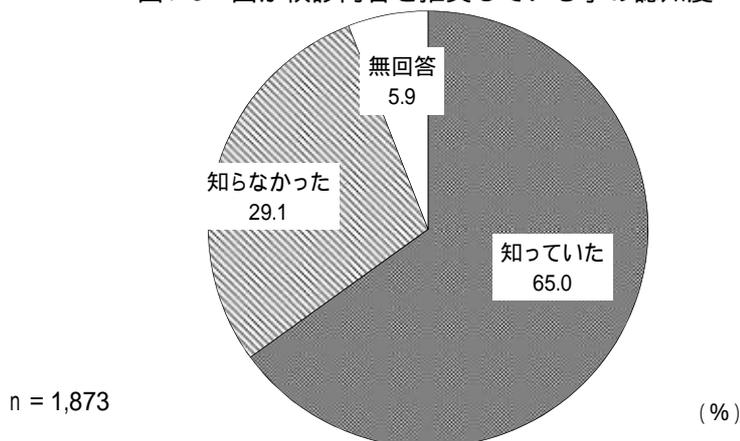
図1-2 ピンクリボン運動の認知度



4 国が検診内容を推奨している事を知っていたか

・「知っていた」が65.0%、「知らなかった」は29.1%であった。

図1-3 国が検診内容を推奨している事の認知度



< 国が指針において推奨するがん検診 >
 がん検診の目的は「がんによる死亡率を減少させること」です。そのための方法が国で検討され、「集団の死亡率を減少させるために有効ながん検診」として以下のとおり推奨されています。

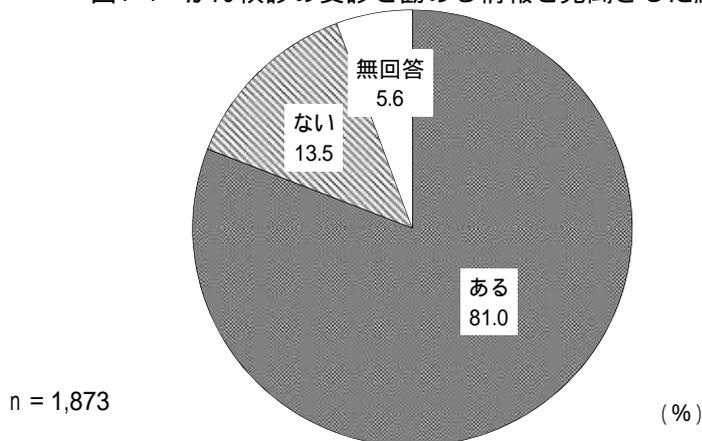
「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(厚生労働省健康局長通知別添)

	対象者	実施間隔	検査方法
胃がん検診	40歳以上	1年に1回	胃部X線検査
大腸がん検診	40歳以上	1年に1回	便潜血検査
肺がん検診	40歳以上	1年に1回	胸部X線検査 *たばこを一定量以上吸う方は、喀痰細胞診
乳がん検診	40歳以上の女性	2年に1回	視触診及びマンモグラフィ
子宮頸がん検診	20歳以上の女性	2年に1回	細胞診(医師による採取)

5 がん検診の受診を勧める情報を見聞きしたことがあるか

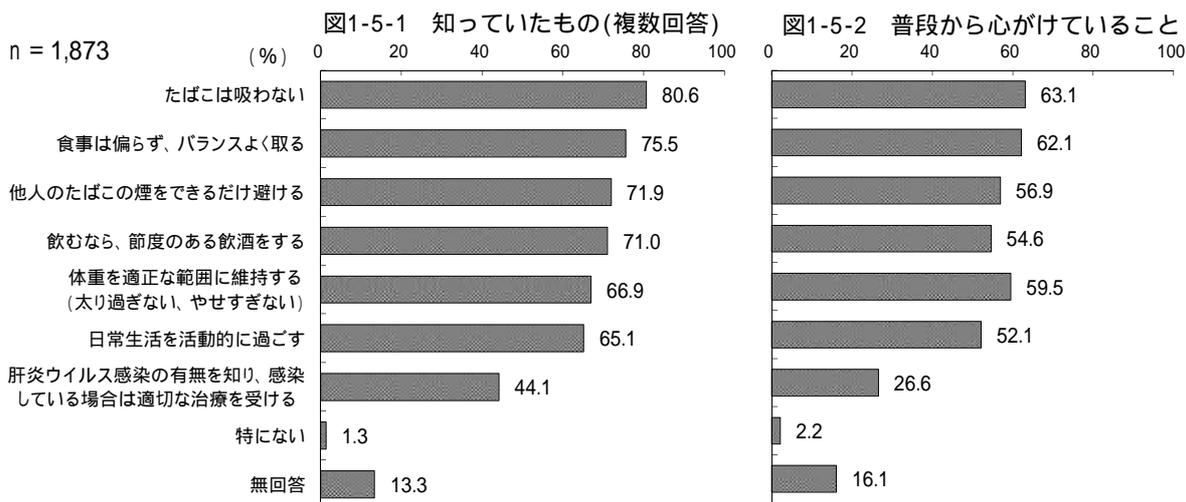
・「ある」が81.0%、「ない」は13.5%であった。

図1-4 がん検診の受診を勧める情報を見聞きした経験



6 日本人のためのがん予防法の認知度、心がけている予防法

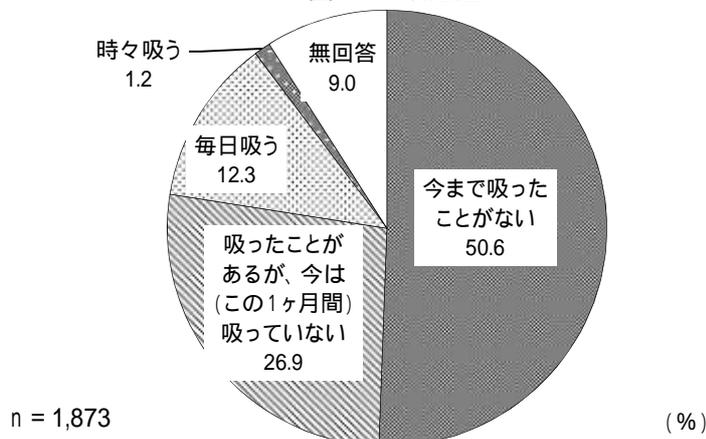
・知っているもの、普段から心がけていることのいずれも「たばこは吸わない」が最も高く、次いで「食事は偏らず、バランスよく取る」であった。



7 たばこを吸ったことがあるか

・「今まで吸ったことがない」が50.6%、「毎日吸う」は12.3%であった。

図1-6 喫煙歴

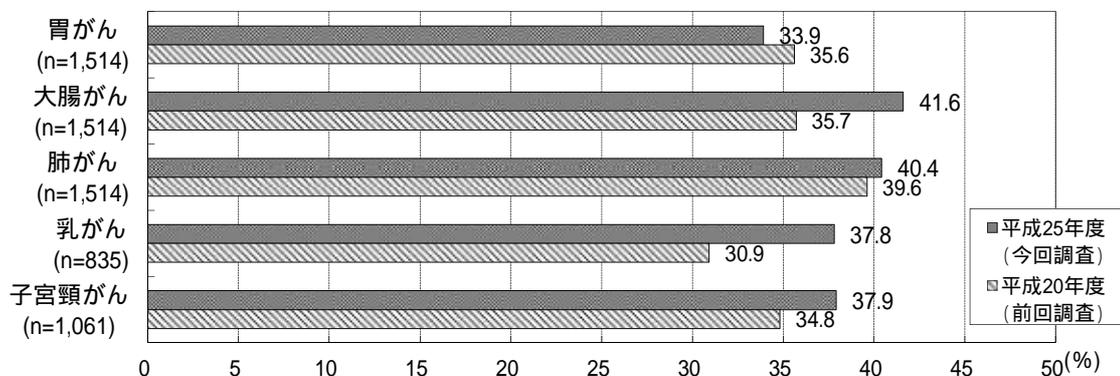


8 がん検診の受診状況

(1) がん検診受診率

- ・大腸がん、肺がん検診は4割台、胃がん、乳がん、子宮頸がん検診は3割台であった。
- ・平成20年度と比較すると、大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診の受診率が上昇している。

図1-7 各がん検診の受診率（前回調査との比較）



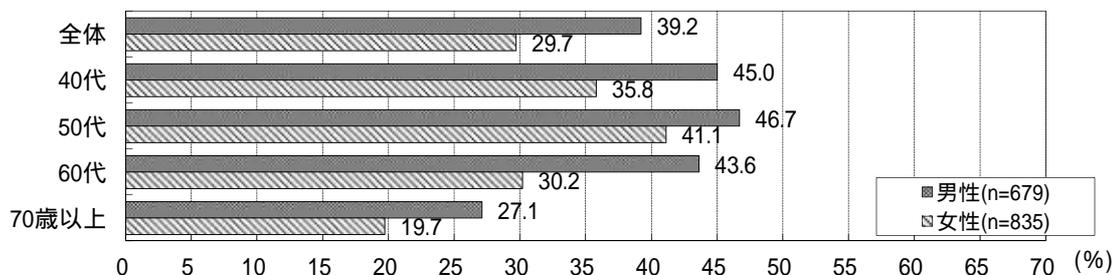
* 胃がん、大腸がん、肺がん検診については、40歳以上の男女の過去1年の受診歴で算出
 乳がん検診については、40歳以上の女性の過去2年の受診歴で算出（重複受診は重複分を除外）
 子宮頸がん検診については、20歳以上の女性の過去2年の受診歴で算出（重複受診は重複分を除外）

(2) 性・年代別のがん検診受診率

胃がん検診

- ・全ての年代で男性の受診率が女性の受診率を上回っている。
- ・男性、女性とも50代の受診率が最も高い。

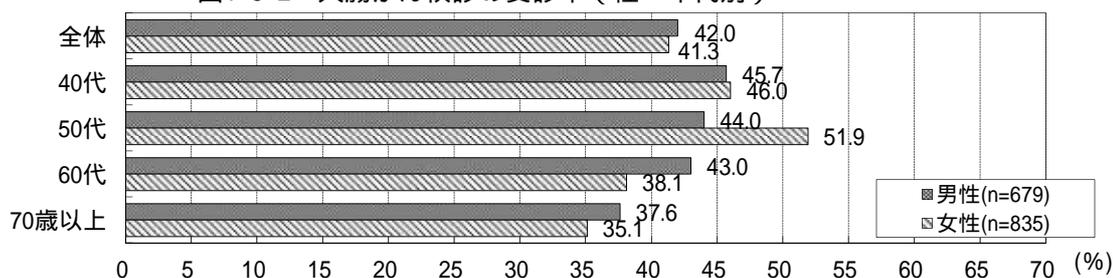
図1-8-1 胃がん検診の受診率（性・年代別）



大腸がん検診

- ・男性は40代から60代の受診率がいずれも4割半ばと高くなっている。
- ・女性は50代の受診率が51.9%と最も高くなっている。

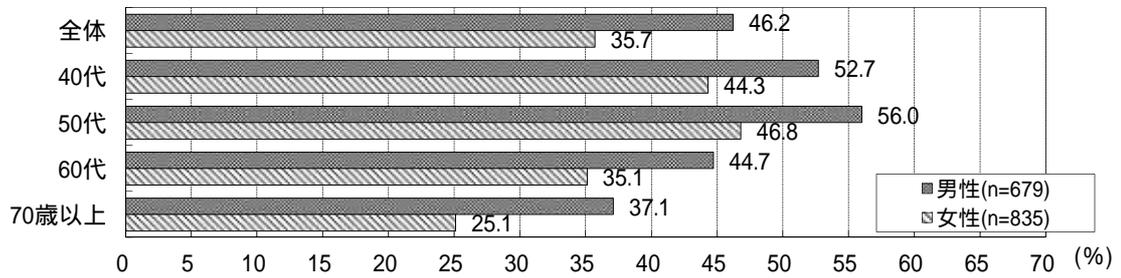
図1-8-2 大腸がん検診の受診率（性・年代別）



肺がん検診

- ・全ての年代で男性の受診率が女性の受診率を上回っている。
- ・男性、女性とも50代の受診率が最も高い。

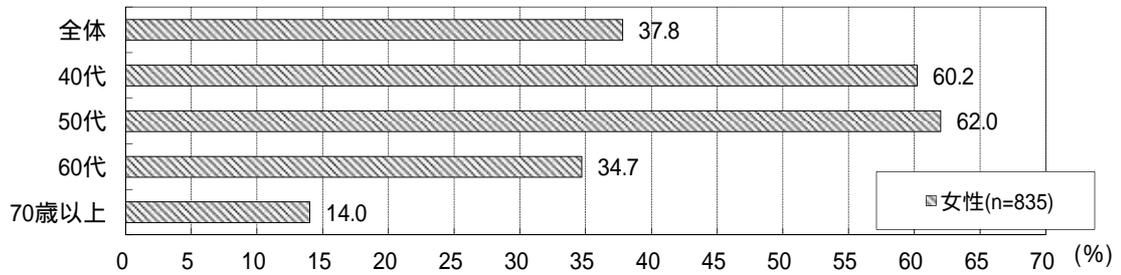
図1-8-3 肺がん検診の受診率（性・年代別）



乳がん検診

- ・40代、50代の受診率が6割を上回り高くなっている。

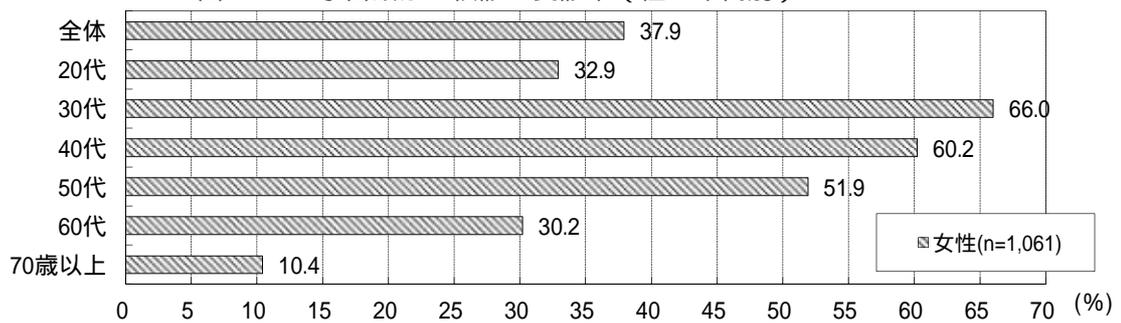
図1-8-4 乳がん検診の受診率（性・年代別）



子宮頸がん検診

- ・30代、40代の受診率が6割を上回り高くなっている。
- ・20代の受診率は32.9%であった。

図1-8-5 子宮頸がん検診の受診率（性・年代別）

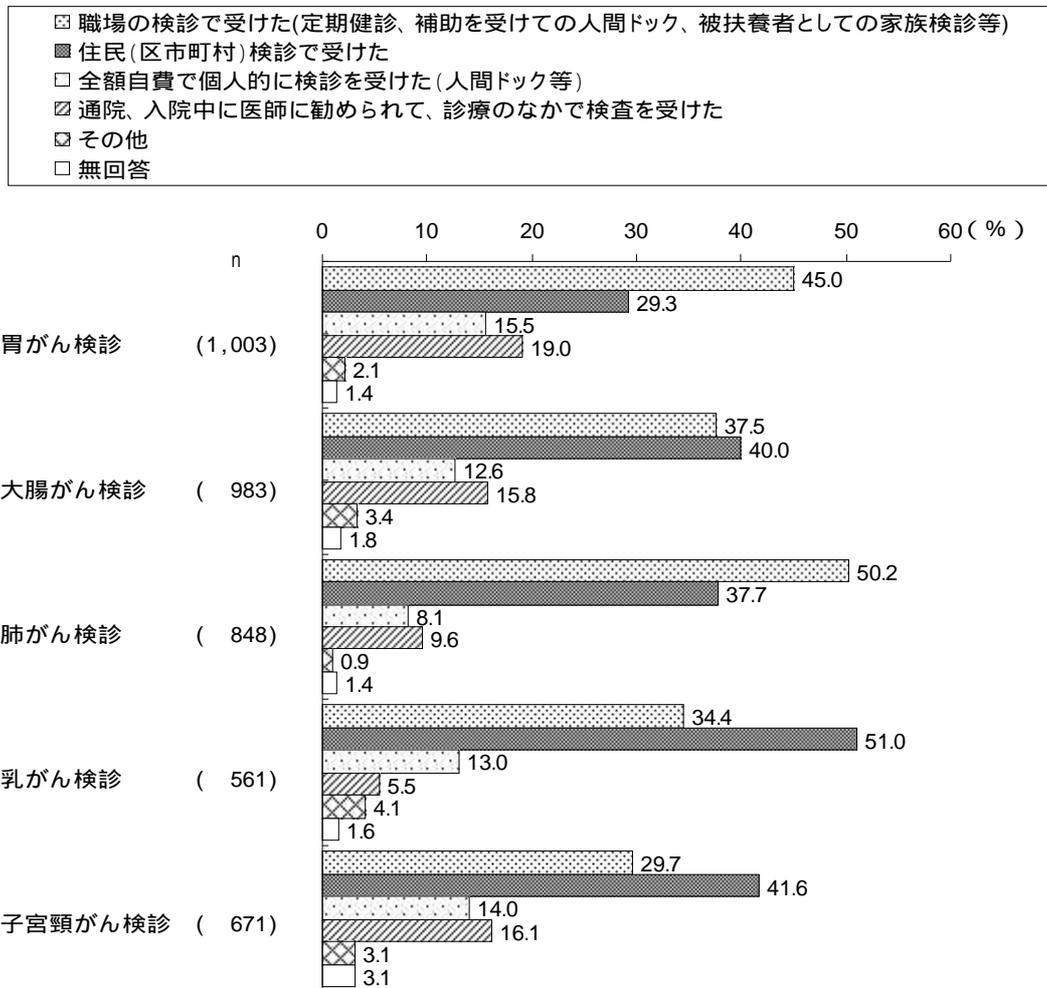


(3) がん検診の受診機会

[過去にがん検診を受けたことがあると回答した者について]

- ・胃がん、肺がん検診は「職場の検診で受けた(定期健診、補助を受けての人間ドック、被扶養者としての家族検診等)」が最も高い。
- ・大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診は「住民(区市町村)検診」で受けた」が最も高い。

図1-9 がん検診の受診機会(複数回答)



(4) がん検診を受けなかった理由(上位5位)

[過去にがん検診を受けたことがない、わからないと回答した者について]

・各がん検診とも「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

表1-2 がん検診の未受診理由(上位5位)(複数回答)

(%)

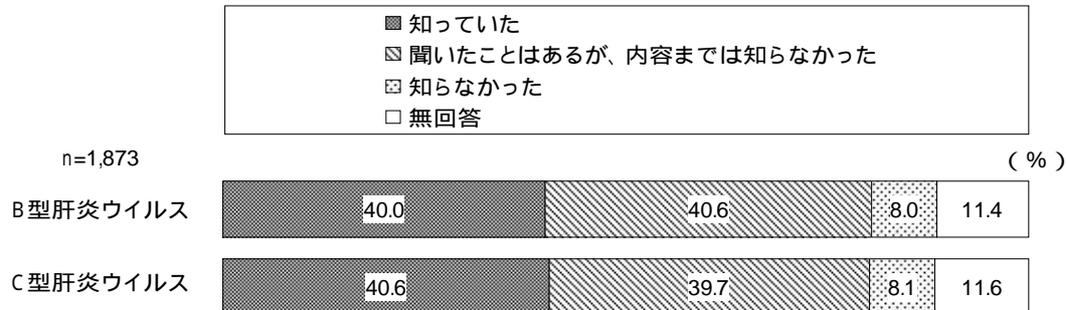
	n(人)	1位	2位	3位	4位	5位
胃がん検診	436	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから 29.6	忙しいから(家事、育児、介護、仕事等) 27.5	面倒くさかったから 24.8	健康に自信があるから 20.9	費用が高いから 14.7
大腸がん検診	489	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから 32.5	面倒くさかったから 23.5	忙しいから(家事、育児、介護、仕事等) 22.5	健康に自信があるから 18.6	検査に痛みや苦痛があると思うから 14.9
肺がん検診	616	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから 32.5	健康に自信があるから 21.9	忙しいから(家事、育児、介護、仕事等) 19.3	面倒くさかったから 17.4	がん検診をどこで受ければよいか分からなかったから 12.5 費用が高いから 12.5
乳がん検診	258	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから 34.5	健康に自信があるから 23.3	忙しいから(家事、育児、介護、仕事等) 19.4	面倒くさかったから 14.3	検査に痛みや苦痛があると思うから 13.6
子宮頸がん検診	373	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから 30.0	忙しいから(家事、育児、介護、仕事等) 22.0	健康に自信があるから 18.0	面倒くさかったから 17.2	恥ずかしいから 16.4

9 肝炎ウイルス検診に関する状況

(1) 肝炎ウイルスを知っているか

・B型、C型ともに、「知っていた」「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」をあわせて約8割が認知していた。

図1-10 肝炎ウイルスに関する認知状況

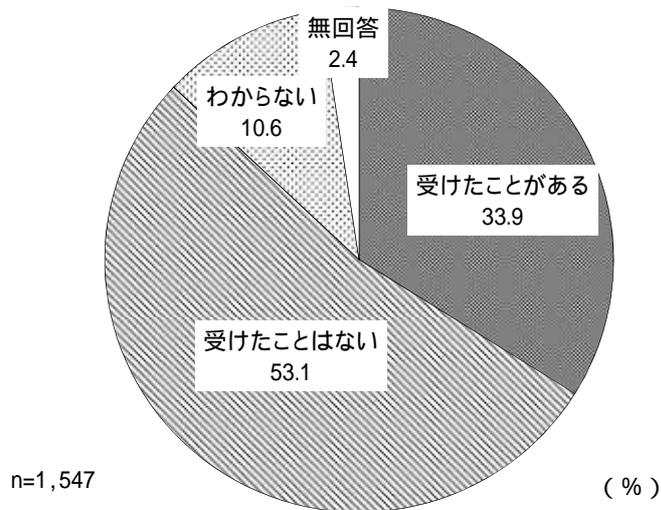


(2) 肝炎ウイルス検診の受診状況

[(1)でB型、C型のいずれか一つでも「知っていた」「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」と回答した者について]

・「受けたことがある」が33.9%、「受けたことはない」は53.1%であった。

図1-11 肝炎ウイルス検診の受診状況



第2章 都内事業所・健康保険組合を対象とした調査

1 調査概要

(1) 調査対象

東京都内（島しょ部を除く）に所在する事業所及び健康保険組合

(2) 標本数

事業所 3,045標本 健康保険組合 100標本

(3) 標本抽出方法

事業所

都内事業所から、日本標準産業分類の大分類を基に類型化した7分類と、事業所規模に応じた3分類での層化後、無作為抽出した。

健康保険組合

都内に本部を置く健康保険組合を対象に、100団体を無作為抽出した。

(4) 調査方法

郵送配布・郵送回収法

(5) 調査期間

平成25年9月17日から10月3日まで

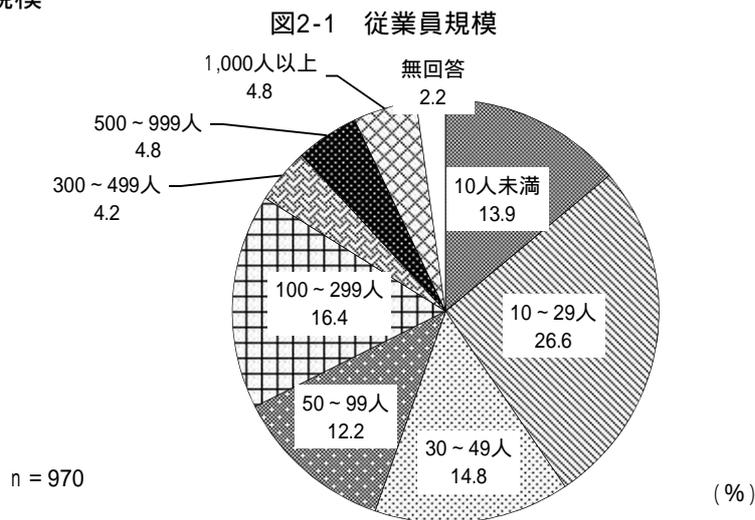
(6) 回収率

事業所 31.9% 健康保険組合 61.0%

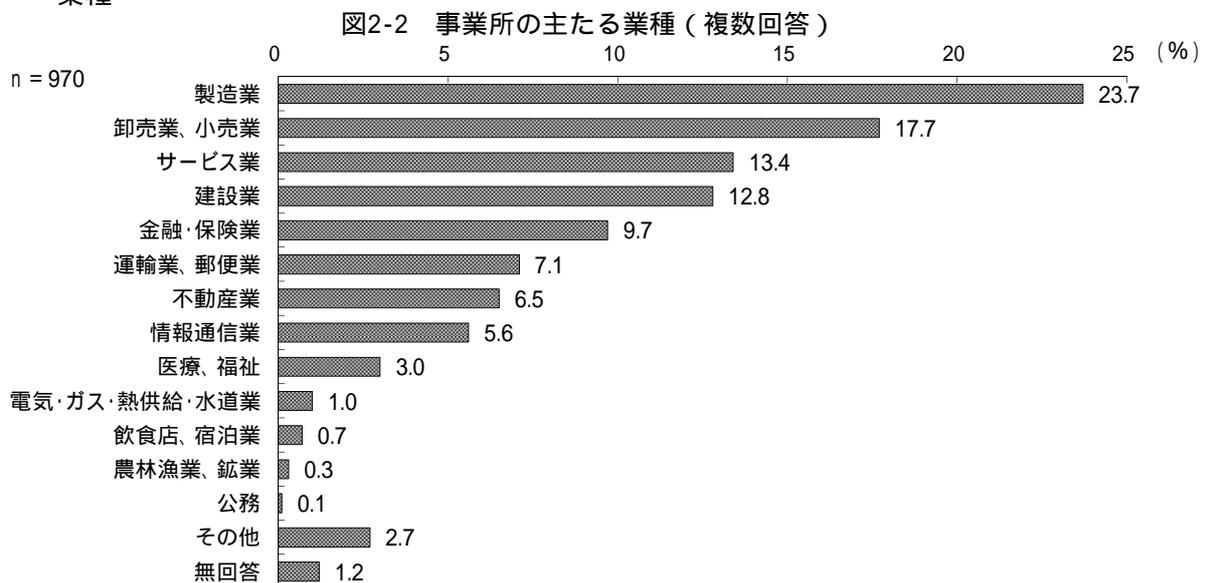
2 基本属性

(1) 事業所

従業員規模



業種



(2) 健康保険組合

設立形態

表2-1 従業員規模

上段:事業所
下段:%

単一	総合	連合
49	12	0
80.3	19.7	0.0

加入事業所数

表2-2 加入事業所数

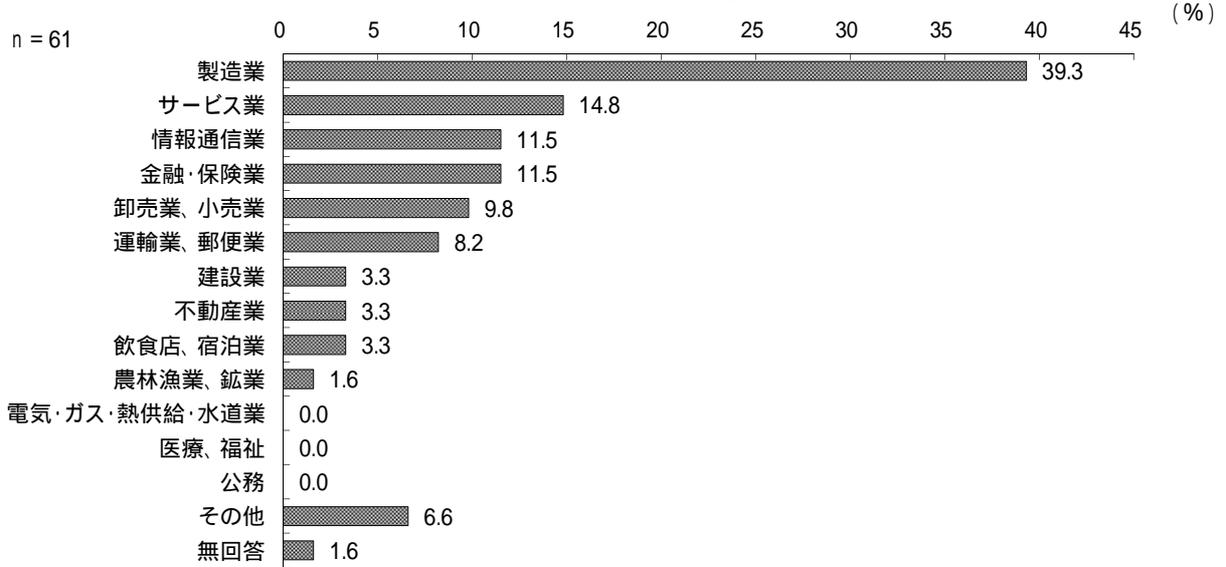
n = 60 (事業所)

平均	最小値	最大値
171.78	1	1,560

無回答を除く

業種

図2-3 加入事業所の主たる業種(複数回答)

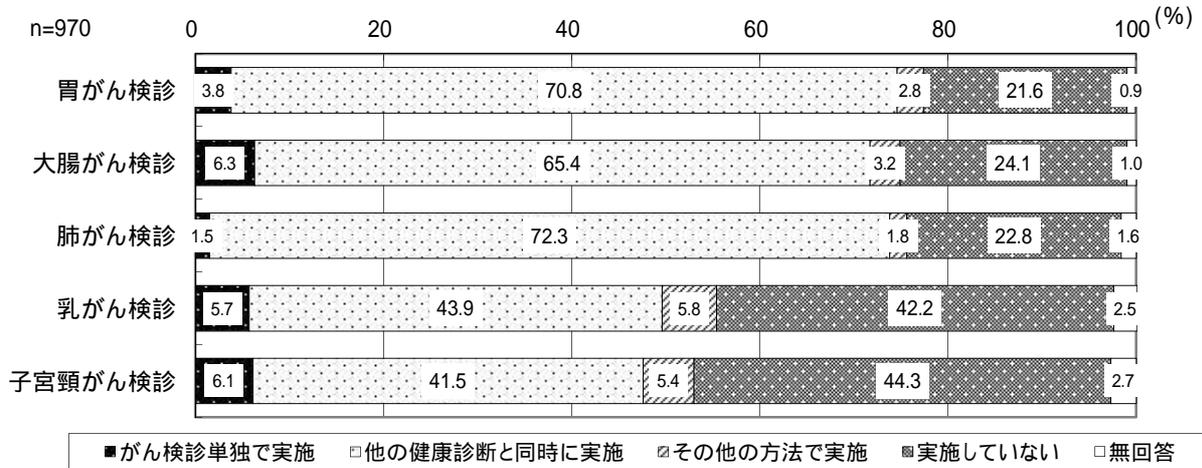


3 がん検診の実施状況

(1) がん検診の実施状況<事業所(正社員)>

・胃がん、大腸がん、肺がん検診は7割半ばが、乳がん、子宮頸がん検診は5割半ばが実施している。

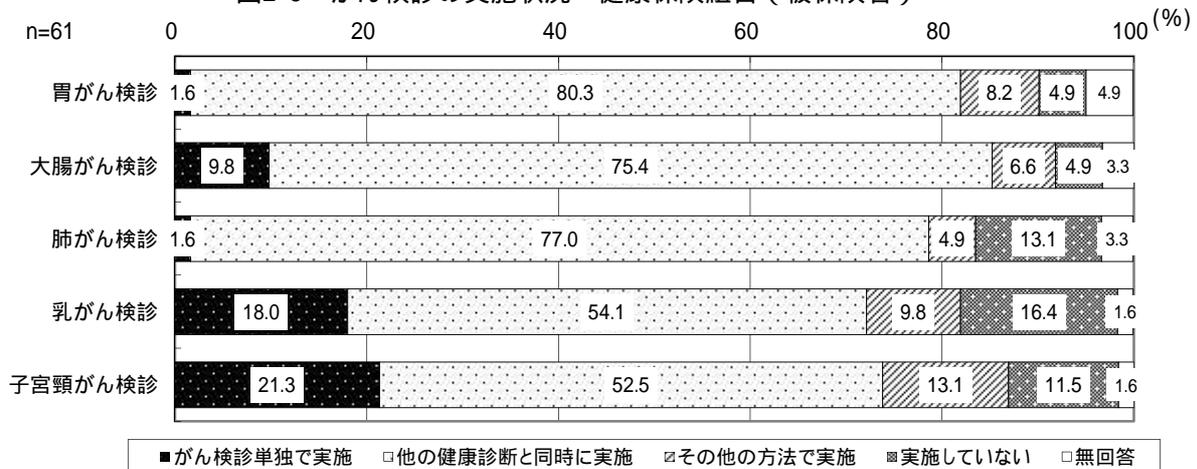
図2-4 がん検診の実施状況<事業所(正社員)>



(2) がん検診の実施状況<健康保険組合(被保険者)>

・各がん検診とも、8割から9割が実施している。

図2-5 がん検診の実施状況<健康保険組合(被保険者)>



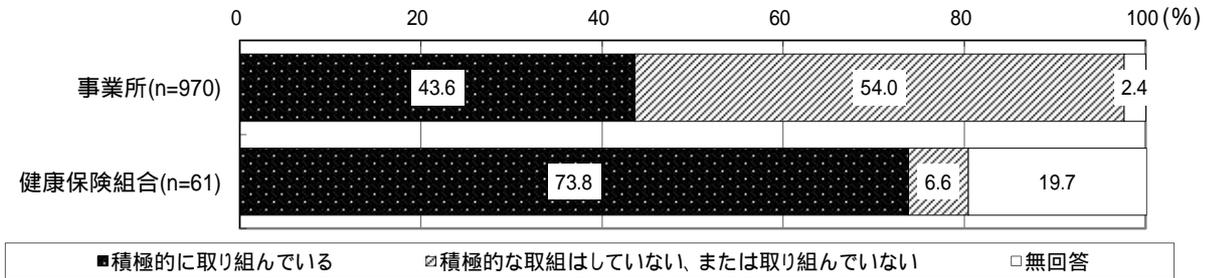
4 がん検診の受診者を増やすための取組状況

(1) がん検診受診率向上の取組状況

全体

・「積極的に取り組んでいる」事業所は43.6%、健康保険組合は73.8%であった。

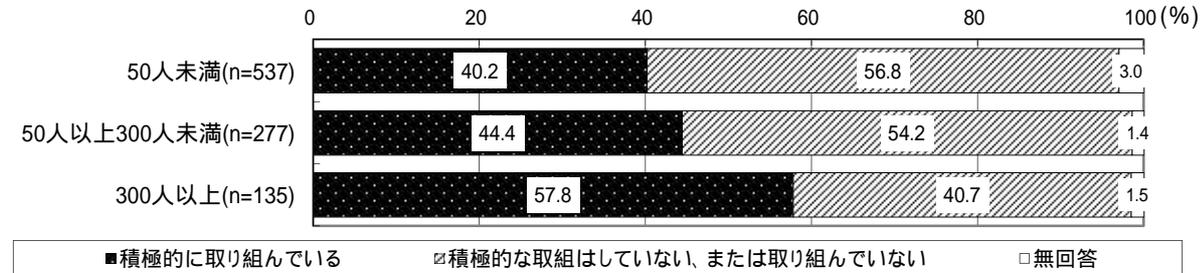
図2-6 がん検診受診率向上の取組状況



従業員規模別 < 事業所 >

・従業員規模が大きくなるほど「積極的に取り組んでいる」割合が高い。
 ・300人以上の事業所では、「積極的に取り組んでいる」割合が5割を超えている。

図2-7 事業所における従業員規模別のがん検診受診者増のための取組状況

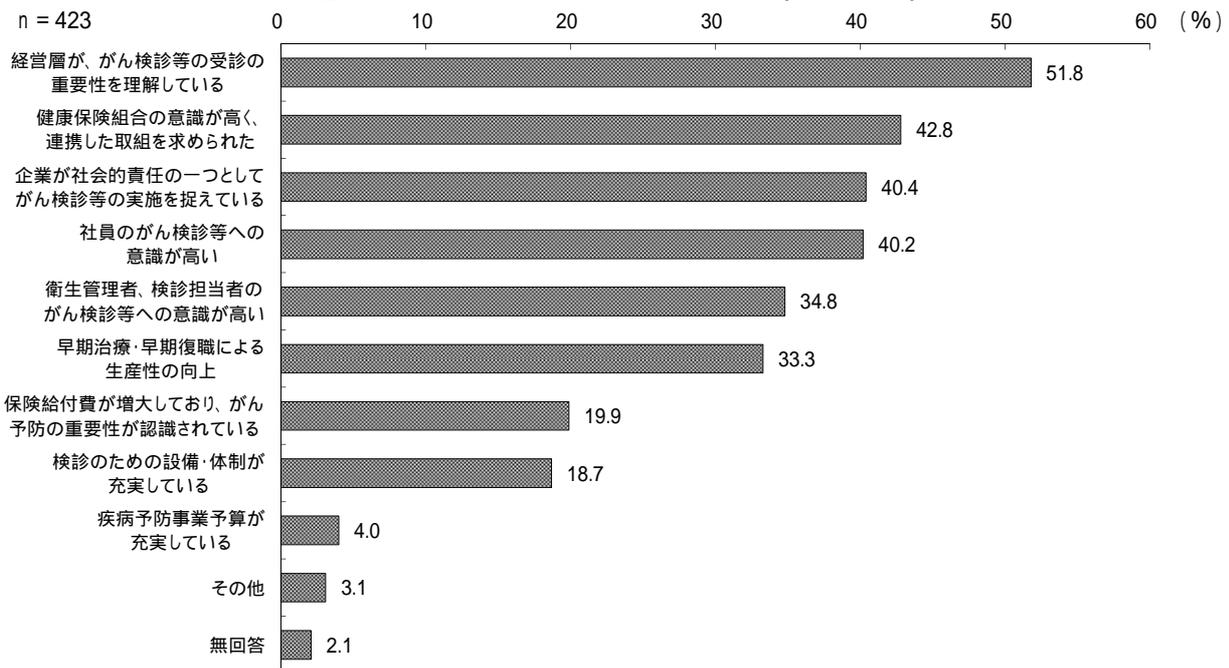


(2) 積極的に取り組んでいる理由 < 事業所 >

[(1)でがん検診の受診率向上に「積極的に取り組んでいる」と回答した事業所について]

・「経営層が、がん検診等の受診の重要性を理解している」が5割を超え最も高くなっている。

図2-8 積極的に取り組んでいる理由 < 事業所 > (複数回答)

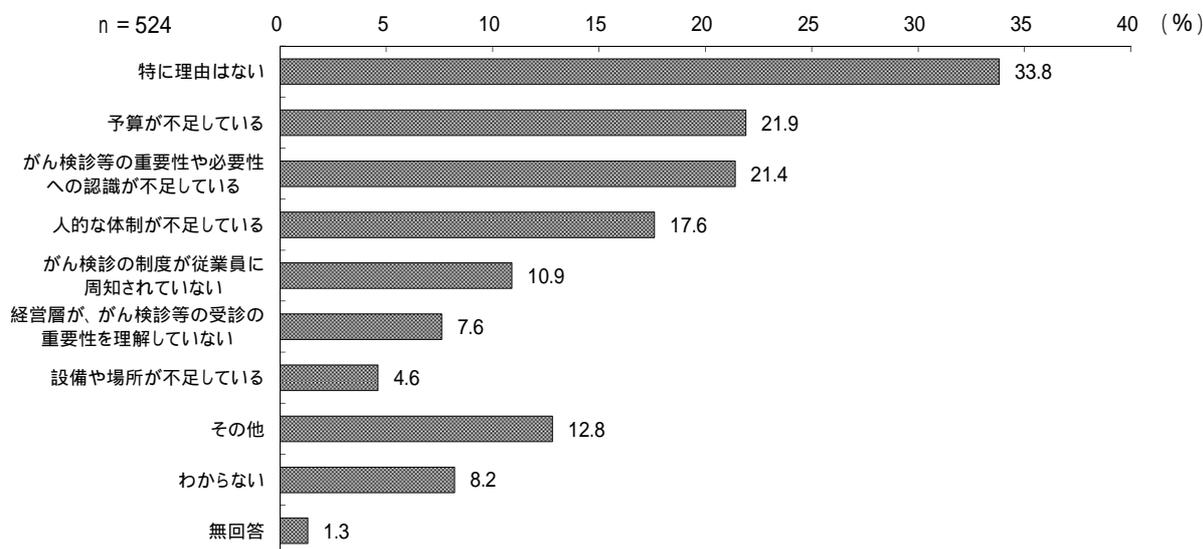


(3) 取組に消極的、または取り組んでいない理由<事業所>

[(1)で「積極的な取組はしていない、または取り組んでいない」と回答した事業所について]

・「特に理由がない」が33.8%と最も高く、次いで「予算が不足している」(21.9%)、「がん検診の重要性や必要性への認識が不足している」(21.4%)となっている。

図2-9 取組に消極的、または取り組んでいない理由<事業所> (複数回答)



5 がん検診に関する行政への要望

・事業所、健康保険組合とも「自治体と職域が連携できる場や連携しやすい仕組みをつくってほしい」が最も多く、次いで、事業所では「職域でもがん検診の受診をより促進させるような制度をつくってほしい」、健康保険組合では「加入者にごがん検診の重要性をわかりやすく伝える資料や医療費削減効果がわかるデータ等を提供してほしい」となっている。

図2-10 がん検診に関する行政への要望<事業所> (複数回答)

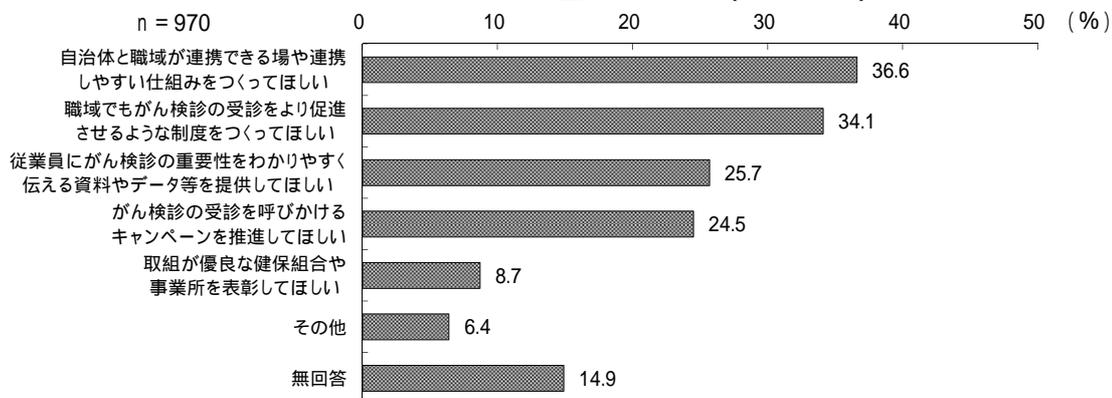
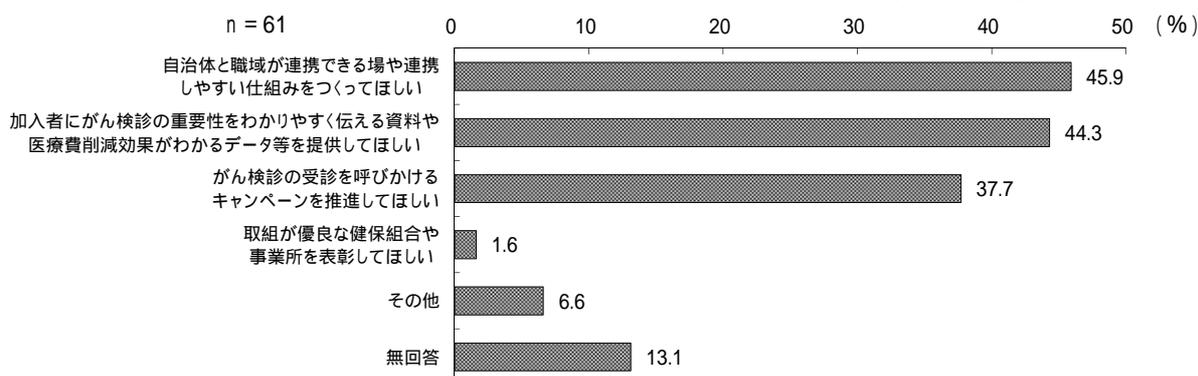


図2-11 がん検診に関する行政への要望<健康保険組合> (複数回答)



6 肝炎ウイルス検診の実施状況<事業所(正社員)・健康保険組合(被保険者)>

・事業所は7割弱が、健康保険組合は5割弱が「実施していない」と回答している。

図2-12 肝炎ウイルス検診の実施状況(正社員・被保険者)

